

編集後記

先の台風第19号による豪雨は、甚大な被害をもたらしました。想像もしない、広範囲の河川の氾濫による浸水被害により、沢山の方々が被災されましたこと心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い再建を願うばかりです。台風の大型化は年々増えているように思います。私達も何時震災にあうかもしれません。当たり前のことかもしれません、ハザードマップの確認と、もしもの時の対応を普段から準備をしなくてはいけないと改めて認識させられました。

今月の「誌上ギャラリー」は錦秋の写真です。いちょうの紅葉が、秋空とマッチして心を落ち着かせる一枚でした。相良有一先生ありがとうございました。

「論説と話題」では、九州首市医師会連絡協議会が下関で行われ、「医療・介護現場での業務効率化に向けて」をテーマに掲げられており働き方改革、従事者の減少に対して医療・介護保険制度の簡略化や各種書類の削減、簡略化が必要とのことでした。ぜひ推進していただきたいと思います。

「医療トピックス」くすり一口メモは炎症性腸疾患（IBD）に使用される生物的抗体製剤と最近の話題が紹介され、分子標的治療薬の作用機序と詳細がまとめられています。

「学術」は才田幸一郎先生より「意識障害を主訴に来院した肺血栓塞栓症の1例」と題しご寄稿いただきました。意識障害を呈した高齢者はエコー検査やD-dimer測定による肺血栓塞栓症を念頭に置く必要があるとのことでした。

栃木健太郎先生からは「市中肺炎の合併症を早期診断し、心理社会面をサポートし

得た一例」をご寄稿されております。近年独居の高齢者が多く、周囲のサポートが必要と私も強く感じております。ご寄稿誠にありがとうございました。

「医師会病院だより」では大塚博文先生から婦人科の現状として婦人科良性腫瘍として腹腔鏡を中心とした手術、手術以外は卵巣癌、子宮体癌に対する化学療法を施行されており、ほとんどが外来化学療法室で行われているとのことでした。

「随筆・その他」の切手が語る医学のコーナーでは古庄弘典先生よりグアテマラ・ホンジュラス切手が紹介されています。いつも貴重な切手ありがとうございます。また随筆のコーナーでは白尾貞樹先生から、鹿児島の風景と機材紹介としてご投稿いただいております。沢山の魅力的な風景が紹介されておりますが、特に【狐が丘】や【魚野ライトエリア】は、私も是非訪れてみたいと思います。ご投稿ありがとうございます。

「各種部会だより」は内科医会のCPC症例検討会の報告です。医師会病院の循環器内科の先生方から症例提示があり、活発な質疑応答があったとのことです。

「各種報告」では令和元年度の鹿児島市学校心臓検診・学校腎臓検診・学校糖尿病検診等が報告されています。ご参照ください。

9月から行われたラグビーワールドカップは全国で盛り上がり、日本代表は予選グループを4戦全勝で勝ちぬき目標のベスト8に進む事が出来ました。残念ながら南アフリカには敗れましたが、私達に素晴らしい感動を与えてくれました。次回大会でまたさらなる飛躍を期待しております。

（編集委員 角 純啓）